



# まちづくりの役割 意見交換 市自治会連合会による市政懇談会

自治会、町内会などが連携し、安全で安心して暮らせる地域づくりを進める、つがる市自治会連合会（林嗣郎会長）では、市政への理解と相互の協力を深めようと、10月13日、松の館で「市政懇談会」を開催し、自治会長ら41人が出席しました。

懇談会では、福島市長が農業振興施策やつがるブランドの推進をはじめ、福祉、教育など幅広い分野について市の重点施策を講話。その後、自治会長らが日頃抱えている課題や要望など4つのテーマについて市長、各部長と意見交換を行い、まちづくりにおける自治会と市、それぞれの役割に対する理解を深めました。

## 市の道路政策について／広岡町内会 藤田 興機 会長

市において舗装、側溝、防雪柵、融雪溝、除雪対策などの事業を実施するに当たり採択の基準はあるのか。

### 【北澤建設部長】

舗装、側溝、防雪柵については特に採択の条件や基準は設けてません。各自治会からの要望を受けて危険性や緊急性に応じて実施しています。土木課では道路パトロールを行っています。土木課ではカバーできないので、穴や危険箇所を見つけたらお知らせください。融雪溝の補助事業については、交通量などの採択条件があります。また交通安全対策上、警察署と協議のうえ除雪対象外区域を設けています。



## 支所の廃止について／沼崎自治会 野宮 柳一 会長

支所がなくなることは、地域住民、特に車の運転ができないお年寄りは困る。支所廃止後の住民サービスはどうなるのか。今後、稲垣や車力の支所も廃止になるのか。

### 【山本総務部長】

ご負担をなるべく軽減するため、出張所の業務拡充、森田郵便局での証明書交付、24年度からの軽自動車税のコンビニ納税を準備中です。稲垣、車力支所の統合については検討の時間が必要で現段階で具体的な計画はありません。その他自治会での課題や相談については本庁の担当課や総務課へ来ていただければと思います。



## 毛虫の大発生について／柴田町内会 工藤 寛樹 会長

今夏、市内全域に毛虫が大発生し公園や神社や民家までに被害が広まった。個人での防除には限界がある。ヘリコプターなどでの一斉駆除ができないものか。今後、大発生があった場合、どのような対策を考えているのか。

### 【鎌田民生部長】

ヘリコプターの一斉駆除は人体や小動物、住宅への影響が大きく安全面を考慮すると難しいです。市で管理する公共施設や公園は市で対応しますが、個人の所有する樹木などは基本的には個人で対処していただきたいと思ひます。ただ空き家や老人世帯に対応していただく町内会の活動などには何らかの助成ができるよう今後検討いたします。



## つがるブランドについて／鶴野自治会 葛西 貢造 会長代理

市内の道の駅や直売所でつがるブランドの農産物があまり売られていない。市民や観光客がいつでも、つがるブランドを買い物できる大局的な取り組みが必要と思う。市民が胸を張ってつがるブランドを語る地域づくりを願う。

### 【成田経済部長】

つがるブランドの加工品・農産物については来年度以降、店の認証制度を検討しています。つがるブランド取扱店をホームページに掲載し、市民や観光客へPRする予定です。今後、出荷団体、販売者などと協議し地元で販売できる体制をめざします。



開会のあいさつを述べる  
林嗣郎会長



造水機の水を試飲する市民



避難所受け入れ訓練



各避難所へ向かう市民

# みんなで守るこのまちを

## 土砂災害を想定した防災訓練

10月17日、平成22年度つがる市総合防災訓練が富范公民館周辺で行われ、防災関係機関・団体、富范町内会、各老人クラブ、地域住民など約300人が災害時の備えを確認しました。

この訓練は昨年、車力地区が土砂災害特別警戒区域などの指定を受けたことから、地域住民の防災に対する意識の高揚を図るとともに、関係機関の災害対策、対応能力の向上を目的に実施されました。訓練は土砂災害を想定したもので、避難所開設、応急給水訓練など本番さながらに繰り広げられました。

訓練は、前日から降り続いた豪雨により大雨警報と土砂災害警戒情報が発せられ、その後の雨で土砂が流出し、土砂災害の危険性が高まったことから避難勧告が発令された、という想定。

午前9時、防災無線と広報車による避難勧告が発令されると、各地区の住民は清水保健福祉館、権現・深沢コミュニティセンター、富范公民館へ避難し、名簿記入など避難所受け入れ訓練が行われました。

主会場の富范公民館では現地災害対策本部を設置するとともに、土砂崩れにより水道設備が損壊し断水したことを想定して、航空自衛隊車力分屯基地による応急給水訓練を実施。河川や湖沼の水から1日に約1万リットルの飲料水を造水することができ、造水機でろ過した水が参加者に配られました。

また、NTT東日本による電気通

信設備応急復旧訓練では通信設備の被害により固定電話と携帯電話が不通となったことを想定して、衛星回線を利用した特設公衆電話の開設や災害用伝言ダイヤルの体験訓練が行われました。

その他にも防災意識の高揚を図るため、西北地域県民局による土砂災害警戒の講習や市消防署による疑似煙の体験も行われました。

閉会式で福島弘芳災害対策本部長は「災害はいつやってくるかわかりません。普段からの訓練を重ねることにより被害を最小限に食い止めることができます。地域の皆さんが地域で助け合うことも重要。本日の訓練を契機にますます精進してください」と講評。

いつ、どのように襲ってくるかわからない災害に、私たちは日頃からの訓練を通じて「まず何をすべきか」確認しておく必要があります。



講評を述べる福島本部長



煙体験ハウスで地面に近いほど煙が少ないことを体感

災害用伝言ダイヤル「171」を体験

# 紅葉の中を駆け抜け、健脚競う

## 地球村一周マラソン大会



家族で仲良くゴールをめざす



声援を受け元気いっぱいの走りを披露

健康増進と活気ある地域づくりを推進しようと「第6回地球村一周マラソン大会」が10月10日、つがる地球村で開催され、紅葉し始めた自然の中、市内外から約210人のランナーが健脚を競い合いました。

同大会は、一般、高校生、中学生、小学生、ファミリーの部など14部門に分かれて行われ、福島市長のピストルの合図で3キロの部を皮切りにスタート。参加者はそれぞれのペースで心地よい汗を流しながら、ゴールをめざしました。また、大会終了後には、参加者たちに豚汁が振る舞われ、豊かな自然に囲まれながら楽しい1日を過ごしていました。



5kmの部で力走する花岡和君

### 大会結果

#### 10km

高校・一般 (39歳以下) 男子			
順位	氏名	タイム	住所
1	田中 匠瑛	33分37秒	つがる市
2	大平 隼人	33分52秒	黒石市
3	斎藤 大祐	35分04秒	弘前市
一般 (40歳以上) 男子			
1	川口 逸夫	36分09秒	板柳町
2	伊藤 玉明	36分23秒	五所川原市
3	葛西 武志	37分07秒	黒石市
高校・一般 (39歳以下) 女子			
1	大橋 優子	46分36秒	十和田市
2	清水 友美	49分12秒	青森市
一般 (40歳以上) 女子			
1	川越 七重	39分24秒	つがる市
2	伊藤 朝美	41分47秒	五所川原市
3	岩田 亮子	52分27秒	五所川原市

#### 5km

高校・一般 (39歳以下) 男子			
順位	氏名	タイム	住所
1	佐藤 真	16分22秒	青森市
2	川口 知希	17分33秒	鱒ヶ沢町
3	山崎 貴穂	17分43秒	弘前市
一般 (40歳以上) 男子			
1	川越 秀徳	18分35秒	つがる市
2	黒木 浩明	19分16秒	鶴田町
3	佐々木栄治	20分46秒	板柳町
高校・一般 (39歳以下) 女子			
1	成田 綾子	27分40秒	弘前市
2	西崎 香理	32分06秒	つがる市
一般 (40歳以上) 女子			
1	藤田 綾子	20分30秒	青森市
2	原田美加子	28分24秒	青森市

#### 3km

中学校 男子			
順位	氏名	タイム	住所
1	小野 雄大	10分06秒	弘前市
2	花岡 樹	10分26秒	つがる市
3	村上 利央	10分33秒	弘前市
中学校 女子			
1	川越 南実	12分40秒	つがる市
2	佐々木 佑芳	14分02秒	つがる市
3	野宮 千愛	14分06秒	青森市
小学校4年生以上 男子			
1	安田 暢弥	12分36秒	つがる市
2	宮崎 翔	12分40秒	鱒ヶ沢町
3	松橋 達久	13分26秒	つがる市
小学校4年生以上 女子			
1	高橋 葵	11分41秒	五所川原市
2	三上 怜	11分54秒	五所川原市
3	境谷 柚希	12分37秒	つがる市
一般男子 (60歳以上)			
1	山崎 好明	12分33秒	弘前市
2	中野 博	12分39秒	つがる市
3	松山 義昭	12分49秒	弘前市